

人間ドック



千葉西総合病院 健康管理センター

人間ドックを受診した皆さんへ

- ☆ 人間ドックは幅広く検査して、未然に生活習慣病の発症を予防し、ガンなどを早期に発見して、健康を維持するのが目的です。
- ☆ 人間ドックの検査成績とコメントから、自分の生活スタイルを見直し、健康的な生活習慣を作る参考にして下さい。
- ☆ 人間ドックで異常を指摘され、治療や精密検査・経過観察などを指示された場合は、症状が無くとも必ず指示に従って受診するようにしましょう。これを確実に行わなければ、人間ドックを受診した意味がなくなります。
- ☆ 人間ドックでの検査は必ずしも100%完全ではありません。また、病気のごく初期の場合は、検査結果に出ないこともあります。「異常なし」と診断されても自覚症状がある場合、また、人間ドック受診後に症状が出た場合は必ず医療機関を受診して、更に詳しく検査してもらいましょう。
- ☆ 自分の健康は自分で守るとの意識をしっかりと持ちましょう。今回異常が無くとも、年に一回は人間ドックを受診して、自分の健康状態を経年・客観的に幅広くチェックするようにしましょう。
- ☆ 人間ドックの記録は、いわば、自分の健康状態の通信簿です。この記録は、非常に役に立ちますので、大切に保存し、医療機関を受診する場合や次回人間ドックを受診する場合は必ず持参して下さい。

人間ドック検査項目の結果の見かた

当院で行っている検査項目を各ドックごとに色分けして表示しています。

日帰	日帰りドック・一泊ドックに含まれる検査項目です。
心臓	心臓ドックに含まれる項目です。
脳	脳ドックに含まれる項目です。

項目下の数字は報告書の総合判定番号と同じになっています。ご参考下さい。
○印は日帰りドック・一泊ドックともに行っている項目です。●は一泊ドックの項目となります。
△印は各ドックのオプション対象項目になります。

日 帰	心 臓	脳		
1	1	1	診 察	
○	○	○	心 音	不整脈や心雑音を調べます。
○	○	○	肺 野	肺の雑音や呼吸の音を調べます。
○	○	○	腹 部	腸の動きや腫瘍の有無を調べます。

2	2	2	身 体 計 測	
○	○	○	標 準 体 重	身長×身長×22/10000
○	○	○	肥 満 度	(体重-標準体重)×100/標準体重
○	○	○	体内脂肪率	身体に微小な高周波電流を流し電気抵抗を求め、体内脂肪率を計測します。 体重に対し、脂肪がどれだけあるかを%で示します。男性：25% 女性：30% 以上は肥満です。
○	○	○	B M I	痩せと肥満の程度を示す指標です。体重(kg)/身長(m ²)で計算され、17.5~24.9が正常で、25以上は肥満です。
○	○	○	腹 囲	男性85cm、女性90cmが内臓脂肪100cm ² に相当する

3	3	3	血 圧 検 査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○	○	○	血 圧	血圧は測定時の条件により変動します。高血圧と判断された場合は再検査を受けて下さい。高血圧は生活習慣病の一つですので、高血圧を指摘された方は日常生活を改善して下さい。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

4			眼 科 検 査	
○			視 力	眼に疾患がある場合は矯正視力が出ないことが多くなります。 ただし、網膜裂孔、細膜剥離、緑内障などでは、視力が出ても注意を要します。
○			眼 圧	眼圧は年齢差、個人差もあるが眼圧が高い場合は緑内障など、眼圧が低い場合は、網膜剥離や脈絡膜剥離が疑われます。
○			眼 底	網膜や脈絡膜、視神経の異常を調べ、また網膜の血管の状態を調べますが直接は見ることができない体の他の部分の細動脈の状態を類推することが出来ます。

日 帰	心 臓	脳		
5		5	聴 力 検 査	
○		○	聴 力	1,000Hzは会話領域の聞こえを調べ、4,000Hzは高音域に起こる難聴を早期に発見するために検査します。

6	6	6	尿 検 査	
○	○	○	蛋 白	腎臓病で陽性となります。激しい運動ストレスにより陽性になることもあります。尿沈査と血液検査と合わせて判定します。
○	○	○	糖	血糖値が高く、一定の限度を超えると尿中に糖が漏れてきて、糖尿病発見の手掛かりとなります。
○	○	○	潜 血	腎臓・尿管・膀胱の炎症、腫瘍、結石などがあると陽性になります。激しい運動で一過性に血尿がみられ、また原因不明の血尿もあります。月経中は尿中に血液が混ざりやすいので、月経が終わってから検査を受けて下さい。
○	○	○	ウロビリノーゲン	健康な人でもわずかな尿ウロビリノーゲンがみられます。(++)では肝障害、(-)では胆道の閉塞が疑われます。
○	○	○	P H	通常は弱酸性で7以下の事が多いです。食事の影響を受けます。
○	○		比 重	尿の濃さで腎機能障害を見る検査です。低すぎても高すぎても異常です。
○			沈 査	尿中に含まれる細胞、結晶成分を分析して診断に役立てます。通常でもわずかな細胞や結晶は見られます。赤血球増加は尿路結石・腎臓病等、白血球増加は尿路感染症、顆粒円柱は腎炎でみられます。

7	7	7	血 液 一 般	
○	○	○	白 血 球 数	細菌感染症・白血病・悪性腫瘍の転移で増加し、膠原病・一部の血液疾患では減少します。
○	○	○	赤 血 球 数	少ない時は貧血、多い時は多血症となります。
○	○	○	血 色 素 量	血液中の色素量（ヘモグロビン）をあらわしたもので、貧血の指標となります。
○	○	○	ハマトクリット	血液中の赤血球の占める体積を%であらわしたもので、貧血の指標となります。
○			M C V	赤血球1個の平均容積です。
○			M C H	赤血球1個の平均色素量です。
○			M C H C	赤血球容積に対する平均色素量の割合です。
○	○	○	血 小 板 数	血小板が少なくなると、血が止まりにくくなります。血液疾患・膠原病・肝硬変等で減少します。
○			血 清 鉄	鉄欠乏性貧血で減少します。
○			白 血 球 分 画	白血球を形によって分け、病気診断の手がかりとします。
			好 中 球	細菌感染症・炎症・血液疾患で増加します。
			好 酸 球	アレルギー疾患・寄生虫症・血液疾患で増加します。
			好 塩 基 球	血液疾患で増加します。
			単 球	マラリヤ・結核・梅毒などの慢性感染症や水痘、麻疹で増加します。
○			リンパ球	ウイルス感染症・血液疾患で増加します。
○			血液沈降速度	感染症や炎症などによって上昇します。

日 帰	心 臓	脳		
8	8	8	腫 瘍 マ ー カ ー	
○			C E A	主に胃や大腸、膵臓など消化器系がんのマーカーとして用いられます。
○			P S A	前立腺がんのマーカーとして用いられます。（男性のみ）
△	△	△	γ-セミノプロテイン	前立腺がんのマーカーとして用いられます。（男性のみ）
△	△	△	A F P	肝臓がんのマーカーとして用いられます。
△	△	△	S C C	扁平上皮がん（子宮頸管部）のマーカーとして用いられます。（女性のみ）

9	9		電 解 質 検 査	
○	○		ナトリウム カリウム クロール カルシウム リン	体液中に含まれる電解質で、腎障害・脱水症など種々の疾患でこれらのバランスが乱れます。
				カルシウム・リンは副甲状腺ホルモン異常の指標に用いられます。

10	10	10	肝 機 能 検 査	
○			総 蛋 白	血清蛋白は、いろいろな疾患で異常を示し、病態究明の手がかりとなります。
○			アルブミン	肝臓で作られ血漿膠質浸透圧を維持し、種々の物質を運搬する役割があります。ネフローゼ・腎炎・肝硬変。慢性疾患・低栄養などの場合には減少します。
○			A / G 比	アルブミンとグロブリンの比で、肝障害や多くの疾患の究明の参考となります。
○	○	○	G O T G P T	GOTは心筋・筋肉・肝臓、GPTは肝臓の細胞に含まれる酵素で、これらの細胞が壊れると細胞内から血中へ酵素が出てくる事で高くなります。GOTは心筋疾患（心筋梗塞・筋炎）および肝疾患、GPTは肝疾患で高くなります。
○	○	○	L D H	悪性腫瘍・心筋梗塞・肝疾患・血液疾患などで著しい上昇が見られます。
○	○	○	γ-GTP	アルコール性肝障害・胆道閉塞（胆のうがん・胆管がん・胆管炎）等で上昇します。
○	○		総ビリルビン （直接型、間接型）	肝臓で作られ、胆汁へ排出される黄色の色素です。肝・胆道疾患では直接型が、溶血性疾患では間接型が高くなり黄疸を生じます。体質的（先天性）に高いこともあります。
○	○		A L P	骨・肝・腎・小腸粘膜などにある酵素で、これらの疾患などで高くなります。特に、閉塞性黄疸では著しく上昇します。また、小児や妊婦でも高くなります。
○			L A P	胆汁うっ滞、肝細胞障害で高くなります。
○			コリンエステラーゼ	血液や全ての臓器の細胞に含まれており、高い場合、糖尿病、脂肪肝を疑います。
○		○	H B s 抗原	B型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗原（+）はB型肝炎に罹患していることを示します。
○		○	H B s 抗体	B型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗体（+）は、かつてB型肝炎にかかり、治癒していることを示します。
○		○	H C V 抗体	C型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗体（+）はC型肝炎の既往、あるいは罹患を示します。
	○		C P K	CPKは、骨格筋、脳、心筋、平滑筋に多く含まれ、他の臓器にはあまりないので、この局在性が、疾患の診断に利用されます。
	○		C P K-MB	急性心筋梗塞、心筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患で高値になります。

日 帰	心 臓	脳		
11			膵 機 能 検 査	
○			アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。膵炎・膵がん・唾液腺疾患で増加する他、悪性腫瘍で増加することがあります。

12	12	12	腎 機 能 検 査	
○	○	○	尿 素 窒 素	腎障害・消化管出血で高くなります。運動、発熱、脱水でも高めになります。
○	○	○	クレアチニン	腎障害で高くなります。腎臓機能低下の手がかりとなります。
○	○	○	eGFR	血液中のクレアチニンと年齢および性別から計算した値です。 腎臓機能低下の手がかりとなり、慢性腎臓病の早期発見に役立ちます

13	13	13	血 清 反 応	
○		○	C R P	急性炎症や組織が壊れた時に陽性となり、慢性間接リウマチなどの膠原病・感染症・悪性腫瘍で増加します。
	○	○	高 感 度 C R P	動脈硬化や狭心症など心臓病の指標の1つです。糖尿病、肥満、喫煙、加齢でも上昇します。
○		○	R T P H A	梅毒感染の有無及び既往を調べる検査です。膠原病で上昇することがあります。
○		○	R A	関節リウマチを診断する検査です。膠原病・肝硬変で陽性のことがあります。
	○	○	アディポネクチン	内臓脂肪と相関していて、内臓脂肪が増えればアディポネクチンは減少します。心筋梗塞や糖尿病では、数値が低くなります。
△	○	△	B N P	心不全や虚血性心疾患および脳血管疾患、閉塞性動脈硬化症などで高値になります。潜在性動脈硬化の発見に役立ちます。

14	14	14	脂 質 代 謝	
○	○	○	総コレステロール	肝臓で作られ、肝機能障害や栄養状態の指標になります。コレステロールの内容により解釈が異なります。
○	○	○	中 性 脂 肪	血液に含まれる脂肪分で動脈硬化に関係があります。食後は高くなるので早朝空腹時に採血が必要です。
○	○	○	H D L コレステロール	いわゆる善玉コレステロールで、低値は動脈硬化性疾患の危険因子の一つです。有酸素運動で増加し、喫煙・肥満で減少します。
○	○	○	L D L コレステロール	いわゆる悪玉コレステロールで、高いと動脈硬化をまねく恐れがあります。有酸素運動と食事療法で低下します。

15	15	15	糖 代 謝	
○ ●	○	○	空腹時血糖	血液中のブドウ糖量を調べる糖尿病の検査です。食後は高くなりますので、早朝空腹時に採血し測定されます。（一泊ドックは糖負荷試験もあります）
○	○	○	H b A 1 c	過去1～2ヶ月間の血糖のコントロール状態を知る事ができます。血糖値が正常でもこの値が高いときは糖尿病が疑われます。

16	16	16	尿 酸	
○	○	○	尿 酸	血中尿酸値が常が高いと痛風発作などを起こします。肥満・肉・魚介類の食べ過ぎ、アルコール常習過飲、過度の筋肉疲労および脱水で上昇します。

日 帰	心 臓	脳		
17			肺 機 能 検 査	
○			肺 活 量	思い切り息を吸い込んで、息をひと息に吐き出したときの量で、この値が低いときは肺線維症などの障害が考えられます。
○			努力性肺活量	最大の速さで一気に吐き出した空氣の総量
○			一 秒 量	一秒で最大限出せる息の量。
○			一 秒 率	吐き出した空氣の総量に対する1秒量の割合。低値のときは肺気腫や気管支喘息などの閉塞性換気障害が考えられます。

18			喀 痰 検 査	
△			喀痰細胞診	痰の中にがん細胞があるかどうかを調べます。

19	19		胸 部 X 線 検 査	
○	○		肺 野 所 見	肺に結核等の呼吸器系の病気があるかどうかを判定したものです。
				● 要精査・・・肺野所見を認めますが、病的所見かどうかの判断がつかない場合です。呼吸器科専門医のもとで詳しいレントゲン検査が必要です。
				● 経過観察・・・肺野に所見を認めますが、現時点では精密検査の必要がない場合です。
			心 陰 影 形 態 観 察	心臓の陰影の形や大きさ及び大動脈や肺動脈の陰影の異常の有無を検討し、心臓や血管の異常の有無を調べます。

20			胸 部 C T 検 査	
△			胸 部 C T	胸部レントゲン検査では発見しにくい縦隔・肺門・横隔膜に重なる肺がんや、胸部レントゲン検査では不可視の早期肺がんを検査します。

21	21		心 臓 C T 検 査 (256列マルチスライス)	
△	○		心 臓 C T	狭心症の原因となる冠動脈（心臓をとりまく血管）の狭窄を発見できます。 動脈硬化がすすむと冠動脈の内壁に脂肪や石灰が付着して内腔が狭くなるとともに血管が弾力を失って硬くなり血液の流れが悪くなります。

22	22	22	心 臓 検 査	
○	○	○	心 電 図	心電図とは、心臓が収縮・拡張する時に心臓の筋肉から発生する非常に小さい電流を体の表面から記録したものです。この心電図から心臓の働き具合がわかります。主に不整脈・狭心症・心筋梗塞・心膜炎・心肥大の診断に役立ちます。所見が書かれていても、総合判断で特に指示が出されていなければ現時点では心配ないものと考えてください。
△	○		心臓超音波	超音波を使って心臓の形や動きなどを観察する検査です。 左右の心室を隔てている中隔に穴があいていないか、弁膜症がないか心室内に血栓や腫瘍はないか、水がたまっていないか、心臓の運動に異常はないかといったことを診断します。

日 帰	心 臓	脳		
23			上 部 消 化 管 検 査	
○			上 部 消 化 管	【上部消化管X線検査】 バリウムを飲んで消化管のがんや潰瘍を診断します。
				【上部消化管内視鏡検査】 食道や胃、十二指腸の状態を直接観察して病変部を診断します。 病変部が出血していないか、形状・大きさ・色に異常がないかなどがわかります。
24			胃 の 健 康 度 検 査	
△			ペプシノゲン	胃粘膜の萎縮がすすむと減少する。血中のそれぞれの値や濃度比（Ⅰ／Ⅱ）を検査して胃の異常、特に萎縮の程度を調べます。
△			ピロリ抗体	胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないか調べる検査です。
25			便 検 査	
○			便 中 ヘモグロビン	消化管からの出血を調べる検査で、主に大腸出血を調べるものです。 陽性の場合には、大腸のポリープ・憩室・がんや痔が疑われます。 特に早期大腸がんのスクリーニングにより検査です。
26			下 部 消 化 管 検 査	
△			下 部 消 化 管	直腸から盲腸までの大腸全体の粘膜を直接観察します。 腸のポリープやがんなどの発見に有効で、大腸がんの診断には欠かせない検査です。
27			甲 状 腺 超 音 波	
○			甲状腺超音波	首の中央部分に位置する甲状腺を超音波で調べる検査です。 甲状腺の腫れや内部に、のう胞、腫瘤があるかを検査します。
△			TSH FT3 FT4	甲状腺の機能を調べる血液の検査です。 バセドウ病や橋本病などの診断に有効です。
28	28	28	頸 動 脈 超 音 波	
△	○	△	頸動脈超音波	超音波を使って脳へ血液を送る頸動脈を調べる検査です。 MRA検査では見えない血管の動脈硬化の状態を調べます。
29			腹 部 超 音 波	
○			腹部超音波	肝臓、胆のう、膵臓、脾臓、腎臓を超音波で調べます。 脂肪肝、胆石、のう胞、腎結石、腫瘍などの有無を検査します。 ※膵臓は、消化管ガスの影響で見えづらい臓器となっています。
30			前 立 腺 超 音 波（男性のみ）	
○			前立腺超音波	前立腺が老化によって肥大し、尿道が圧迫されて排尿が傷害される前立腺肥大などを調べます。 ※尿量不足により見えづらい場合があります。

日 帰	心 臓	脳
--------	--------	---

31			乳 房 超 音 波（女性のみ）	
○			乳房超音波	触診やマンモグラフィでわからない病変の描出が可能です。 微細な病変も検出できます。

32			婦 人 科 検 査（女性のみ）	
○			細 胞 診	細胞（特に核構造）を観察して、がんがあるか無いかを検査します。

34	34	34	脳 M R 検 査	
△	△	○	M R I (脳 検 査)	脳梗塞、脳腫瘍などを調べる検査です。加齢による脳動脈硬化で出現する小梗塞は原則無症状で問題となりません。しかし、年齢に比べ脳梗塞が多発していたり症状が出にくい部位の大きな梗塞はMRIで検索します。
			M R A (脳血管検査)	

35			骨 密 度 検 査	
△			骨 密 度	骨量は30～40歳でピークに達し、あとは徐々に低下します。 70～80%で骨量減少、70%以下で骨粗しょう症と診断されます。

36	36	36	動 脈 硬 化 検 査	
△	○	○	ABI (PWV)	血管の動脈硬化を調べる検査です。両手、両足に血圧計のカフを巻いて調べます。

		37	頸 部 M R A 検 査	
		○	MRA(頸部 血管検査)	脳へ血液を送る頸動脈を調べる検査です。 頸動脈超音波では見えにくい血管の異常も確認することが出来ます。

☆	39		頸 椎 M R I 検 査	
			頸椎MRI	脊柱狭窄症・変形性頸椎症・椎間板ヘルニアなど頸部の神経や椎間板の状態を調べる検査です。

	40		大 動 脈 超 音 波 検 査	
	○		大動脈超音波	超音波を使って、腹部にある腹部大動脈と腎動脈を調べる検査です。

☆	41		腫 瘍 マ ー カ ー 2 検 査	
			CA19-9	膵臓がんのマーカーとして用いられます。
			CA125	卵巣がんのマーカーとして用いられます。

☆

日帰	心臓	脳		
42				
			H A 抗 体	A型肝炎ウィルスの感染の指標です。抗体（+）はA型肝炎の既往、あるいは罹患を示します。

47	47	47	睡 眠 時 無 呼 吸 検 査	
△	△	△	睡 眠 時 無呼吸検査	就寝前にご自身で手指・鼻・お腹にセンサーを装着し、睡眠時の呼吸状態を調べる検査です。睡眠時無呼吸症候群などの診断に有効です。

	48		大 動 脈 C T 検 査	
	○		大動脈CT	胸部大動脈や腹部大動脈の大動脈瘤や石灰化などを調べる検査です。

☆ 39.頸椎MRI検査、41.腫瘍マーカー2検査、42.HA抗体検査は契約企業のための検査となります。